



広報委員会活動

広報紙「なみふる」発行

3か月毎の地震活動に加えて、研究者等に**毎号3つの話題**について、**分かりやすく**記事を執筆していただいています。今後も、学会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(ア) **なみふる** No. 0 MAR. 1997 (イ)



「なみふるギフト」への参加のお願い

現在約80校へお届け中

教育の現場に「なみふる」を！
会員の皆様、ご協力をお願いします！

自分の母校やお子さんの学校等に寄贈する
「なみふるギフト」制度

年額600円

お申し込みは
学会事務局へ

理科や社会の授業のほか、
防災訓練やクラブ活動など
活用の機会は多数

現在、財政面の都合で、学会から全国の
小中高校への寄贈は困難なのです。

質問対応

一般の方からの質問対応及びマスコミからの問い合わせを担当しています。

なみふるメーリングリスト運営

地震研究者と一般の方々との意見の交換の場として、**メーリングリスト「nfml」**を1997年から開設しています。これは、**地震に関する知識の交換・普及活動の一環**です。地震研究者と社会との交流に役立ち、研究成果を社会へ還元していく上で少しでも貢献できますよう、希望する次第です。

記者懇談会開催

報道関係者と地震学会の会員との意思疎通を目的として、**1997年3月**から記者懇談会を開催してきました。毎年、**地球惑星科学連合大会**と**日本地震学会秋季大会**に併せて、研究者等に**ホットな話題**や**開催地にゆかりのある話題**について講演していただき、マスコミ関係者と活発な議論がなされています。最近の話題提供の内容は表の通りです。

最近の記者懇談会の開催状況と話題提供者・講演内容

回(年) 開催地	話題提供者・題目
42(2017) 千葉市	小平秀一 国立研究開発法人海洋研究開発機構 「海域観測から南海トラフ地震に迫る」
43(2017) 鹿児島市	後藤和彦 鹿児島大学学術研究院理工学院理学系 「九州地方の地震活動」
44(2018) 千葉市	木下正高 東京大学地震研究所 「南海トラフ巨大地震に掘削で迫る～下からのぞく地震発生帯～」
45(2018) 郡山市	澤井祐紀 国立研究開発法人産業技術総合研究所 「地質記録が明らかにした東北地方の巨大津波」
46(2019) 千葉市	小原一成 東京大学地震研究所 「観測の発展がもたらした新たな地震現象『スロー地震』～その発見と意義～」
47(2018) 京都市	飯尾 京都大学防災研究所 「東北沖地震の後、日本列島はどうなってしまったのか？～科研費新学術領域『地殻ダイナミクス』の成果～」

9月16日 18:30～
D会場で開催予定



第42回(2017年)千葉市での小平氏の講演の様子



第45回(2018年)郡山市での澤井氏の講演の様子



公益社団法人
日本地震学会
The Seismological Society of Japan (SSJ)